

令和4年度多摩市立図書館事業評価

多摩市読書活動振興計画に基づく重点的事業 基本目標(1) だれもが使える図書館	
評価項目 【取り組み1】 より利用しやすくするための配慮	
① 親子で利用しやすい子ども図書室、児童コーナーとなるよう取り組む【継続】 ② 図書館サービスや事業計画に意見を反映できるよう利用者アンケート方法を調査、検討する。【新規】 ③ 図書館利用者だけでなく、図書館を利用していない市民にも参加してもらえる講座等を実施し、図書館の認知度を上げる。【継続】 ④ 障がい者サービスの充実【継続】	
実施結果 (具体的な取り組み状況)	① 親子で利用しやすい子ども図書室、児童コーナーとなるよう取り組む【継続】 ・本館のこどもとしょじつの書架表示について、子どもが自ら本を探せるように分類等の説明をわかりやすく掲示した。 ・永山図書館の子育て情報コーナーをリニューアルし、子育てに関する図書の展示、近隣施設の情報提供を行った。子育てに関する図書を4～12月で160冊展示、そのブックリストを作成し、あかちゃんおはなし会の参加者に紹介し、ブックリストを配布した。ブックリストは110枚を配布した。3月にコーナーを拡充し、60冊程度を展示できる規模にし、選書する本の対象を「妊婦～子どもが小学生くらいまでの保護者」から「妊婦～子どもが18歳までの保護者」へ広げた。 ・豊ヶ丘図書館、唐木田図書館では、表紙見せの棚を増やしたり、書架表示をひらがな表示にするなど児童コーナーの充実を図ることにより、児童対象図書の貸し出しにつながった。 ・親子で利用しやすいフロアとなるよう、引き続き中央図書館の整備を行った。
	② 図書館サービスや事業計画に意見を反映できるよう利用者アンケート方法を調査、検討する。【新規】 ・「第二次読書活動振興計画(仮)」の策定準備に向けた利用者アンケート方法の調査、検討はできなかった。 ・図書館でイベントを実施した際、イベントの満足度や改善点を知るため、アンケートを行い、参加者の満足度やニーズを把握した。 ➤ 「高齢者と家族のための図書館カフェ」 10月22日・11月5日全2回 回答数：4人 ※ボランティアとして参加した大学生6人からも感想、意見を収集した。 参加者は少なかったが、参加者全員から内容について満足との回答があり、また今後も同様のイベントに参加したいと3人が回答した。学生ボランティアからの感想でも家族以外の高齢者と話す機会がなく、よい機会になったと好評だった。

実施結果（具体的な取り組み状況）	➤ 「図書館ミニ仕事体験&バックヤードツアー」 令和4年10月29日 回答数：18人 12歳以下が44%、13～18歳が5%、19歳以上が51%と幅広い世代に参加。内容について満足との回答を9割の方から得て好評であった。今後の希望として本探しや中央館でのツアーやカバーかけ体験など6割の方が回答し、要望が高いイベントであることが把握できた。またその他、音楽を取り入れたイベントや公園を活用した交流イベントなどご意見があり、今後イベントを考える上で参考となる意見を得ることができた。
	③ 図書館利用者だけでなく、図書館を利用していない市民にも参加してもらえる講座等を実施し、図書館の認知度を上げる。【継続】 ・高齢者向けの新規イベントを開催 ➤ 「高齢者と家族のための図書館カフェ」 開催日：10月22日・11月5日全2回（関戸図書館） 参加者：4人（募集定員10組） ・ティーンズ対象の講演会を開催 ➤ 講演会「図書館が日本を救う！！～図書館は本だけではない～」 開催日：8月6日 参加者：63人（募集定員90人） ・子ども対象のイベントの開催 ➤ ワークショップ 「宇宙の広さって？～ぼくの・わたしの今いるところ～」 開催日：3月25日 参加者：19人（募集定員30人） ➤ ほんともスタンプラリー 開催期間：2月25日～3月31日 対象者 どなたでも（主な参加者としては幼児～小学校低学年とその保護者を想定） スタンプカード配付数（各館の合計）734枚 ・ビブリオバトル（紙面版）の開催 本（電子書籍を含む）を紹介するPOPを10タイトル作成し、来場者に読んでみたい本にシールで投票してもらったビブリオバトル（紙面版）を第14回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》で実施した。特に第1回の会場はグリナード永山2階どんぐり広場のため、図書館を普段使わない市民も広く参加してもらえた。 開催期間：第1回 2月25日～2月28日（グリナード永山） 第2回 3月6日～3月31日（本館） 投票数：97票 期間中に貸出された紹介本：6タイトル（紙の本：9回 電子書籍：6回）

- ・多摩センター地区活性化のイベントに参加し、普段図書館を利用しない市民にも図書館を知ってもらうきっかけ作りができた。
 - 「ハロウィンおはなし会 in 旧富澤家」
 多摩センターのハロウィンイベントの一つとしてスタンプラリーの会場の一つとなる旧富澤家でおはなし会と中央図書館のPRを行った。
 開催日：10月22日・23日 各日2回開催
 来館者数：207人（22日）・304人（23日）
 おはなし会参加人数：43人（22日）・47人（23日）
 メッセージ数：51件（22日）・57件（23日）
 - 「ボードゲーム&おりがみで遊ぼう in ライブラリーラウンジ」
 多摩中央公園を会場としたパークライフショーに参加し、パルテノン多摩4階ライブラリーラウンジでイベントを実施し、参加者に中央図書館のPRやパルテノン多摩にあるライブラリーラウンジのPRを行うことができた。
 開催日：3月4日
 参加人数：84人（ボードゲーム）、122人（おりがみ）
 メッセージ数：7件
- ・関戸図書館がある商業施設内のデジタルサイネージに毎月関戸図書館で開催するおはなし会などのイベント情報を掲載し、通りがかった未利用者にPRした。
 - 掲載回数：12回
- ・各課連携企画展示の出張展示などの際に、資料だけでなく中央図書館の案内や電子図書館、デジタルアーカイブのチラシ等を置き、PRした。
 各課連携企画展示（出張展示）：5回

④ 障がい者サービスの充実【継続】【担当：サービス】

- ・多摩市立図書館障がい者等サービス事業実施要綱改正に伴う利用者の拡充。
 要綱を改正したことにより、障がい者サービスに登録できる方の範囲をひろげた。
 - (1) 視覚障害者手帳1～6級までに該当する者を視覚での表現の認識が困難な者に変更。
 - (2) 肢体不自由1級及び2級に該当する者を図書館への来館が困難な者に変更。
- ・多摩市立図書館障がい者等サービス事業実施要綱改正に伴う作成可能、提供可能な資料の拡充。
 要綱を改正したことにより、テキストデージー図書の制作・貸出が行えるようにした。
 令和4年度は多摩市立中央図書館管理運営方針のテキストデージー図書を作成し、利用者へ送付した。
 - 多摩市立中央図書館管理運営方針のテキストデージー図書 送付人数 25名
- ・障がい者サービスの資料の貸出などの機能を中央図書館に移すための引っ越し準備を進めるとともに、中央図書館に障がい者サービス用設備の整備を進めた。
- ・障がい者サービス利用希望者の受付ができるように登録の際のチェック表の様式や手順を見直し、職員向けの研修を実施、障がい者サービス担当者以外の職員でも受付ができるようにした。

図書館の自己評価	① 親子で利用しやすいこども図書室、児童コーナーとなるよう取り組みについて 各図書館で子どもが自分で探せるように、書架表示の見出しを工夫したり、本を表紙見せできる棚を増やすなどの工夫をおこない、利用につなげることができた。 永山図書館では子育てしている保護者に向けた情報コーナーの充実を図り、これまでより対象となる世代を広げることでより多くの方に情報提供することができた。 ② 図書館サービスや事業計画に意見を反映できるよう利用者アンケート方法を調査、検討について 「第二次読書活動推進計画(仮)」の策定準備に向けた利用者アンケート方法の調査は、中央図書館開館準備と並行し計画的に検討すべきであった。図書館カフェやバックヤードツアーなどのイベントを開催した際に、参加者にアンケートをとり、満足度や参加してみたいイベントの要望などを把握することができ、今後のイベント開催の参考とすることができた。 ③ 図書館利用者だけでなく、図書館を利用していない市民にも参加してもらえる講座等を実施し、図書館の認知度を上げる取組について 図書館に関心を持ってもらえるよう講演会やワークショップを開催したほか、図書館以外の場所で開催されるイベントに参加することで、イベントを通じ、普段図書館を利用していない市民に図書館を知ってもらうことができた。 各課が開催する講座等に関連する資料を出張展示することにより、図書館を利用していない市民に図書館を知ってもらうきっかけを作ることができた。 ④ 障がい者サービスの充実について 障がい者サービスに登録できる方の範囲をひろげた結果、今まで登録のなかった発達障害の方の登録があり、新たな利用者層に障がい者サービスを利用してもらうことができた。 多摩市立中央図書館管理運営方針のテキストデージー図書の作成を行い、迅速に利用者へ情報を提供することができた。また、新たな資料である、テキストデージー図書を周知することができた。 これまで永山図書館で受付をしていた障がい者サービス利用の登録を全館で受付できるようにすることができた。
図書館協議会の外部評価	【取り組み1】 より利用しやすくするための配慮 ① 永山図書館のリニューアルされた子育て情報コーナー（子育てのわっか）は、場所も絵本のコーナーに行く途中にあり子どもと一緒にアクセスしやすく、リニューアルされとても良い。ブックリストの配布枚数がこれまでよりも多い点も評価できる。 子どもが自ら本を探せるように分類の説明表示を工夫した取り組みは評価できる。 子育て情報について、日本語を母語としない親もアクセスできるよう、子育ての本やコーナー等に外国語で案内をだすなど更なる充実を期待する。 ③ 図書館を普段利用しない市民に利用していただくことができたとあるが、本当にそうだったのか、確認できるエビデンスを示すべきである。アンケート項目に普段から図書館を利用しているかどうかを聞く項目をつくるべきである。 ハロウィンおはなし会で来場した方が、500人近くいたことは、評価できる。 パルテノン多摩のライブラリーラウンジでイベントを実施したのは良かった。ライブラリーラウンジを市民に知ってもらうためにも、今回のような取り組みを今後につなげていくことが大事である。

	ほんとにもスタンプラリーに参加した方が、普段使わない図書館に行ったかどうかわかった方がよかったが、予想以上に好評であり、評価できる。 ④ 障がい者サービスはよく取り組まれている。また利用登録がこれまで永山図書館だけだったのが、全館でできるようになったことは評価できる。さらに、障がい者サービスがより広く市民に周知されるように取り組むことを期待する。 ・実施結果と自己評価の内容がほぼ同じ内容が書かれている。本来はエビデンスがあって自己評価となるので、書き方に注意してほしい。(これらについては対応済)
今後の方向性	① 令和5年7月に開館した中央図書館では、子どもの本のコーナーと暮らしに役立つ大人の本のコーナーが隣接しており、親子で利用しやすい空間となっている。親子トイレやくつを脱いで絵本が読めるスペースもありハード面は整えたため、今後はより使いやすくなるよう書架表示の工夫と蔵書数を増やしていく。永山図書館で実施している子育て情報を発信するコーナーについては、引き続き情報を更新し、常に新しい情報を提供できるようにしていくとともに同様のコーナーを他館にも広げられるように検討する。また日本語を母語としない保護者が図書館にアクセスできるよう、電子図書館を含めた図書館利用について外国語の利用案内を配布するなどPRするとともに外国語で書かれた資料も意識的に展示していく。 ② 「第二次読書活動振興計画(仮)」の策定準備に向けた利用者アンケートを令和6年度に実施できるように検討を進める。 ③ 図書館を普段利用しない市民に図書館を知ってもらうため、各課との連携企画展示等で図書館以外の場所で資料を展示するなど図書館を知ってもらうきっかけ作りを進めるとともに、中央図書館では多摩中央公園やパルテノン多摩など近隣施設等との連携を引き続き積極的に行い、利用を促すようなイベントを実施していく。 ④ 障がい者サービスの認知度を高めるため、音声やテキストデイジー、点字版の利用案内を作成・配布し、誰もがサービス内容を確認することができるようになるとともに、引き続きホームページや広報等で周知をおこなうことで利用促進を図る。また、各機関（発達支援室、地域包括支援センター、医療機関等）と連携し、当事者だけでなく周辺の方に対し図書館の障がい者サービスの内容や様々な形態の資料を紹介することで利用につなげる。さらにテキストデイジーを自館で作成し、資料数を増やしていく。

基本目標 (2) 子どもへのサービスの充実

評価項目 【取り組み 4】 第三次子どもの読書活動推進計画の推進

● 第三次多摩市子どもの読書活動推進計画に基づき、計画を推進する。また、これまでの進捗状況と計画の残り期間を見渡した上で、令和4年度は図書館全体（各館・係）において、次の事項について、重点的に取り組む。【継続】

- ① 図書館ホームページの子どもの読書に関わるページの情報の充実【子ども読書】【継続】
- ② ブックリストの作成、改訂【子ども読書支援係】【継続】
- ③ 外国語資料、多文化に対応した資料の充実、提供を進める。【子ども読書】【継続】
- ④ 幼稚園、保育園の園児を対象とする市立図書館のPRをするとともに、保育園、幼稚園のセット貸出の実施に向けてアンケートを実施し、ニーズを把握する。【企画運営・子ども読書】【新規】
- ⑤ 児童館、学童クラブとの連携を進める。【子ども読書】【新規】
- ⑥ 中学生にむけての市立図書館のPR（広報誌の発行等）【子ども読書】【新規】
- ⑦ 支援の必要な子どもたちへの新たな取り組みのために、関係課・機関との連携を進める。【子ども読書】【新規】
- ⑧ 各館でおはなし会やイベントを行い、図書館に来館するきっかけ作りを行う。【継続】
- ⑨ 教職員向けに図書館の利用案内を配布【継続】

実施結果
(具体的な
取り組み
状況)

① 図書館ホームページの子どもの読書に関わるページの情報の充実【継続】

- ・子どもの読書に関心のある方のページの「団体の紹介等」の更新を各団体へ依頼し、適宜更新した。
- ・イベント実施では図書館ホームページでバナーを活用し効果的なPRに努めた。

② ブックリストの作成、改訂【継続】

- ・ブックリスト「よんでみよう！」5年生の改訂を行った。
 - ※ 1年生（平成元年度作成・令和2年度改訂、2年生（昭和61年度作成・令和2年度改訂、3年生（平成3年度作成・令和3年度改訂）、4年生（平成4年度作成・令和3年度改訂）、5年生（平成8年度作成・令和4年度改訂）、6年生（平成9年度作成、令和5年度改訂予定）
- 改訂版発行 令和5年4月
- ・支援が必要な子ども向けのブックリスの改訂は出来なかったが、ブックリストの作成に向けて発達支援室と意見交換をした。
- 10月

③ 外国語資料、多文化に対応した資料の 充実、提供を進める。【子ども読書】【継続】

- ・電子書籍にて、児童向けの初級の多読本を購入した。
- 電子書籍洋書購入数 児童向け（多読本） 37点

④ 幼稚園、保育園の園児を対象とする市立図書館のPRをするとともに、保育園、幼稚園のセット貸出の実施に向けてアンケートを実施し、ニーズを把握する。【企画運営・子ども読書】【新規】

・多摩保育園の保護者会で市立図書館のPRを行った。

➤ 1月27日

・幼稚園、保育園等を対象にセット貸出実施に向けた事前アンケートを実施した。

➤ 事前アンケート結果 回答あり：16施設 うち「利用したい」と回答 15施設

事前アンケート送付数：56園「令和5年度保育所等入所のしおり」に掲載されているすべての園に送付。概ね3割の施設から回答があった。

令和5年度に新規事業として取り組むことを決定した。

（アンケートで「本を置くスペースがない」という回答も目立ったため、冊数は1セット30冊程度とし、ふた付きの折り畳みコンテナを用意、中央図書館開館に合わせて開始する）

⑤ 児童館、学童クラブとの連携を進める。【新規】

・児童館、市立保育園への図書館出張おはなし会を実施し、図書館のPRとニーズの把握を行った。（おはなし会はおはなし会ボランティア団体（8団体）の協力を得て実施）

➤ 実施施設 児童館5館、市立保育園、実施時期 10月～2月、実施回数 全8回

参加者数 合計85組、218人（子どものみを含む）

アンケートを参加者、実施施設、ボランティアに対し実施し、参加者59人、6施設、ボランティア8団体から回答があった。アンケートでは、参加者から概ね好評の感想が得られ、実施した全施設からは継続の希望とボランティア団体からも継続して協力との回答を得た。

⑥ 中学生にむけての市立図書館のPR（広報誌の発行等）【子ども読書】【新規】

・多摩市立図書館ニュース（中学・高校生向け）を新たに発行し、配付した。

➤ 発行時期 7月

配布先 市立中学校、都立永山高校、都立多摩桜の丘学園の生徒

⑦ 支援の必要な子どもたちへの新たな取り組みのために、関係課・機関との連携を進める。【子ども読書】【新規】

・発達支援室との意見交換、ひまわり教室の保護者会での図書館のPR

➤ 実施時期 意見交換 10月、保護者会への参加 3月

⑧ 各館でおはなし会やイベントを行い、図書館に来館するきっかけ作りを行う。【継続】

・各館でおはなし会やイベントを行った。

➤ 令和4年度定例おはなし会（あかちゃんおはなし会含む）実績数

区分	本館	東寺方	豊ヶ丘	関戸	聖ヶ丘	永山	唐木田	合計
回数	87回	27回	27回	48回	43回	66回	33回	331回
参加人数	581人	194人	282人	272人	396人	292人	341人	2,358人

➤ 特別（スペシャル）おはなし会実施回数

夏休みや春休みなどに合わせ、各館で特別おはなし会を行った。

開催回数：21回 参加者数：509人

➤ 展示やクイズ、工作などのイベント実施回数

開催回数：16回 参加者数：824人

⑨ 教職員向けに図書館の利用案内を配布【継続】

多摩市立小・中学校の教職員向けに調べ学習による学校図書館を通じた団体貸出や電子図書館の活用方法などを案内する利用案内を配布した。

図書館の自己評価	●第三次計画のアクションプランを引き続き作成することで、これまでの取り組みの「見える化」が出来ており、計画期間の終盤を迎えるにあたって、これまでの取り組みと今後の予定を考える上での資料となっている。 ② 毎年、計画的にブックリスト「よんでみよう！」の改訂を進めており、5年生の改訂を行った。作成にあたっては高学年の子どもの読書傾向を図書館司書等へ照会するなどして情報収集に努めた。そして読書が苦手な子どもにも本を手にとってもらえるよう、また読書好きな子どもはより広い分野に関心を持ってもらえるよう、掲載する本の分類のバランスを考えて作成した。市立小学校の全児童に配付され、各学校の読書指導に活用されていることから、読書啓発に効果をもたらしていると考えている。 ③ 電子書籍には紙の本にない利便性があることから、電子書籍にて児童向けの初級の多読本を購入した。 ④ 保育園、幼稚園のセット貸出の事前アンケートを実施し、令和5年度実施の準備が出来た。保育園、幼稚園における団体貸出の利用の促進は、第三次計画の評価指標にも上げている重要な取り組みの一つである。利用しやすい制度を作ることにより、セット貸しにより利用団体が増えることを期待するものである。 ⑤ 試行として実施した「図書館出張おはなし会」はアンケートの結果、参加者、施設、協力のボランティア団体のいずれもからも好評であった。市立図書館のPRをより効果的に行うことを検討し、今後につなげていきたい。 ⑥ 市立図書館のPRの一環として、今年度は「多摩市立図書館ニュース」（中学・高校生向け）を新たに発行し、今回は新たにできる中央図書館、図書館の利用登録について案内をした。特に市内都立高校の全生徒に配付したことで、ティーンズに向けて情報提供の充実につながったと考える。 ⑦ 発達支援室との意見交換を経て、ひまわり教室の保護者会での図書館のPRが行えた。ブックリストの作成はこれからであるが、着実な連携に向けての動きが出来た。 ⑧ 各図書館で子どもを対象としたおはなし会やイベントを実施し、参加する子どもが図書館を利用するきっかけづくりとすることができた。 ⑨ 多摩市立小・中学校の教職員向けに図書館の利用方法をPRすることができた。
図書館協議会の外部評価	【取り組み4】 第三次子どもの読書活動推進計画の推進 ② 「よんでみよう」の改訂を計画的に実施し評価できる。 ④ 幼稚園、保育園児が、園で図書館の本を利用できるというしくみは大切であり、幼稚園、保育園への「セット貸出」制度を実施できるように準備を進めたことは評価できる。 ⑤ 児童館、学童クラブに出張おはなし会をしていることは評価できる。今後さらに充実させるには、人的支援が必要。ボランティアの組織体制を整えるべきである。 ⑥ 新たに中高生向けの「図書館ニュース」を作成し、市内の全校生徒に配布できたことは評価できる。 ⑦ 支援が必要な子どもたちのサービスについて、更に島田療育センターにも貸出などの交流ができるよう一層の充実を期待する。 ⑨ 教員向けの図書館利用案内の配布は、継続することが大事である。

第三次子どもの読書活動推進計画のアクションプランの達成状況を基に、図書館、関係課、小・中学校の成果や課題を検証し、次期計画の策定に反映していく。そして第三次計画の最終年（期間を1年延長）にあたり、取りこぼしのないように取り組んでいく。

- ② 「よんでみよう」の改訂は1年～6年の全学年が終了する。活用状況等の把握をしていく。
- ④ セット貸出については引き続き利用しやすい制度づくりを進め、利用者の増加につなげていく。
- ⑤ 試行として行った「図書館出張おはなし会」については、方法等についてさらに検討をしていく。
- ⑥ 児童、中高生向けの「多摩市立図書館ニュース」を継続し、効果的なPR媒体として力を入れていく。
- ⑦ 支援が必要な子どもたちへのサービスについては、次期計画策定の中でも特に検討をしていく方向である。
- ⑨ 教員向けの図書館利用案内を継続し、教員への意識啓発に努める。

基本目標 (3) 市民や地域に役立つ図書館	
評価項目 【取り組み5】 読書活動に取り組む団体の支援	
① 市団体貸出を通じて図書館以外でも資料を提供できる場を提供し、図書館資料の利用機会を増やす。 ② 図書館で不要となった本や雑誌を市内小中学校や児童館、パルテノン多摩などに提供し、有効活用する。 ③ 児童館や学童がセット貸出をより利用しやすくなる方法を検討し、実施する。 ④ 団体貸出につながるように児童館や学童が併設している図書館で情報提供や資料の提供を積極的に実施する。	
実施結果（具体的な取り組み状況）	① 市団体貸出を通じて図書館以外でも資料を提供できる場を提供し、図書館資料の利用機会を増やす ・幼稚園、保育園等を対象にセット貸出実施に向けた事前アンケートを市内 56 施設に実施した。 ➤ 事前アンケート結果 回答あり：16 施設 うち「利用したい」と回答 15 施設。 令和 5 年度に新規事業として取り組むことに決定した。 (アンケートで「本を置くスペースがない」という回答も目立ったため、冊数は 1 セット 30 冊程度とし、ふた付きの折り畳みコンテナを用意、中央図書館開館に合わせて開始する)(基本目標 (2) ④の再掲) ・リニューアルしたパルテノン多摩の 4 階ライブラリーラウンジに団体貸出し、来館した市民が利用できるようにした。図書のほか、子育てや市民活動に関係する保存年限の切れた雑誌も設置した。 ➤ 約 1,000 冊を団体貸出し、年 2 回の入れ替え。 2 週間に 1 回、雑誌の追加や棚の整理を職員が実施。書架の本の動きから、利用されていることがうかがえる。 ・ライブラリーラウンジを会場にしたイベントを実施し、イベントに参加した市民にライブラリーラウンジの本について知ってもらうことができた。 ➤ 「ボードゲーム&おりがみで遊ぼう in ライブラリーラウンジ」(パークライフショー) 開催日：3 月 4 日 (土) 開催場所：パルテノン多摩 4 階 ライブラリーラウンジ 参加人数：84 人 (ボードゲーム)、122 人 (おりがみ) ・子ども食堂ネットワーク「たま食。ねっと」参加団体に対し、団体貸出の案内と団体貸出の利用についてアンケートを実施し、要望を聞き取り、次年度の事業につなげた。 ➤ アンケート回答数 2 件 参加団体からは、団体貸出の本の管理が難しいとの意見があったことから、まずはリサイクル本の提供から実施する。(令和 5 年度)
	② 図書館で不要となった本や雑誌を市内小中学校や児童館、パルテノン多摩などに提供し、有効活用する。 ・市内の小中学校、児童館、学童、保育園、幼稚園に除籍した資料を配布した。 ➤ 小学校 11 校 221 冊、中学校 2 校 31 冊、児童館 1 施設 50 冊、学童 3 施設 44 冊、 保育園・幼稚園 7 施設 133 冊 ・保存年限が過ぎた雑誌はパルテノン多摩 4 階のライブラリーラウンジに、芸術・料理・子育て・ファッションの分野を設置した。書架整理を隔週で実施し、整理の際に補充した。書架が充実してきたので、今後は入替についても検討する。

実施結果	③ 児童館や学童がセット貸出をより利用しやすくなる方法を検討し、実施する。 ・セット貸出の申込みをロゴフォームから申込ができるようにし、児童館、学童職員の利便性を高めた。 ➤ セット貸出期間 7月～10月まで（返却は通年） - 学童クラブ 19団体 23セット - 児童館 2団体 2セット ④ 団体貸出につながるように児童館や学童が併設している図書館で情報提供や資料の提供を積極的に実施する。 ・団体貸出は継続し、貸出相談にも応じている。利用実態が見えづらいが、着実な手段として図書館利用ガイダンスなどの開催につなげたい。【豊ヶ丘】
図書館の自己評価	① 保育園、幼稚園のセット貸出の事前アンケートを実施し、令和5年度実施の準備が出来た。保育園、幼稚園における団体貸出の利用の促進は、第三次多摩市子どもの読書活動推進計画の評価指標にも上げている重要な取り組みの一つである。利用しやすい制度を作ることにより、セット貸しにより利用団体が増えることを期待するものである。（基本目標（2）の再掲） リニューアルしたパルテノン多摩の4階ライブラリーラウンジへの団体貸出は、図書館の蔵書の活用と市民へのPRに役立っていると考えている。中央図書館開館後はライブラリーラウンジから中央図書館へ来てもらえる流れができるよう工夫をしていきたい。 ③ロゴフォームからの申込みの実施は、利用団体の申込手続きの負担が減るため、利便性向上の有力な手法のひとつである。実施は効果が大きいと考える。
図書館協議会の外部評価	【取り組み5】 読書活動に取り組む団体の支援 ① 保育園、幼稚園へのセット貸出については、事前アンケートについて回答率が3割と低かったが、サービスの案内についてポスター配布だけでなく、園長会でも説明がありサービスについては周知できている。今後、さらに利用する園が増えるよう、引き続きニーズの把握に努めてほしい。 セット貸出用のリストは種類も多く、また図書館ホームページで公開しており、わかりやすくセット貸出の利用につながっていると評価できる。 また、パルテノン多摩4階のライブラリーラウンジに本を団体貸出することにより、図書館以外でも市民が本を手にする機会が増え、評価できる。ライブラリーラウンジを使って図書館の情報発信をしていくことを期待する。ライブラリーラウンジで、参加者の多いイベントを企画・開催し、図書館の活動を紹介することで、普段図書館を利用しない市民に対し、図書館を知ってもらう機会となったことは、評価できる。 ② リサイクル本の活用については、頒布会の参加が学童クラブは21施設中3施設と利用が少ないことから広げるための工夫や特別支援学校にも対象を広げるなど今後更なる拡充が必要である。 ③ 学童クラブへのセット貸出は、図書館に来なくても来られない子どもたちへのサービスとして評価できる。今後も重要項目として取り組むことを期待したい。
今後の方向性	① セット貸出については引き続き利用しやすい制度づくりを進め、利用者の増加につなげていく。またパルテノン多摩4階のライブラリーラウンジでの団体貸出は場所的な特長を生かした展開を進めていく。 ② リサイクル本の活用については、ニーズ等を把握し、提供先を広げるなど検討する。 ③ 児童館や学童クラブ等へのセット貸出について、今後も重要項目として取り組んでいく。

評価項目	【取り組み8】 地域資料の活用による地域文化の継承
実施結果 (具体的な取り組み状況)	① 中央図書館開館に向けて「地域資料整理方針」を策定する。 ② 多摩ニュータウン関係資料の充実 ③ 多摩市デジタルアーカイブの活用促進のためのパンフレットを作成し、配布、ホームページ等で公開する。【地域資料】【継続】 ④ 多摩市デジタルアーカイブと連動した企画展示などのイベントを、教育委員会文化財担当、パルテノン多摩学芸担当と連携し、実施する。
	① 中央図書館開館に向けて「地域資料整理方針」を策定する。 中央図書館開館に向けて「多摩市立図書館地域資料収集要領」を令和5年3月に策定した。図書館に寄贈され、長年にわたり未整理となっていた資料の収集要領を定めることで、保存・活用を判断することができるようになった。
	② 多摩ニュータウン関係資料の充実 - 寄贈を受けた多摩ニュータウン関係資料等の活用に向けて、寄贈者に資料の内容についてヒアリングを行うとともに整理を行った。 - 受入数： 170 箱 - ヒアリング回数 5～6 回
	③ 多摩市デジタルアーカイブの活用促進のためのパンフレットを作成し、配布、ホームページ等で公開する。【地域資料】【継続】 - 多摩市デジタルアーカイブの活用促進のための活用方法のパンフレットを作成、学校図書館司書の研修会、ふるさと資料館でのイベントやパルテノン多摩市民ミュージアム等で配布した。 - パルテノン多摩学芸担当と各課連携企画展示を実施した。展示では、デジタルアーカイブの郷土写真をプリントして掲示を行い普及に努めるとともに、パルテノン多摩に市民ミュージアムでのパンフレットの配布を依頼した。また二次元コード付きのポスターを作成し、ふるさと資料館で動画等の紹介を行った。 - 各課連携企画展示 「少し昔の多摩市へタイムトラベル！」 8月1日～10月2日 「写真・映像でみる多摩市」 11月1日～12月28日 - 多摩市デジタルアーカイブについて三多摩地域資料担当者会議で事例発表を行い、また、たましん地域文化財団主催の多摩の歴史講座でパルテノン多摩学芸員とともに職員が講師を務めた。 - 三多摩地域資料担当者会事例発表 11月2日 - たましん地域文化財団・東京都市町村自治調査会共催 第25回多摩の歴史講座第4講「調布玉川惣画図を巡る旅ー多摩市デジタルアーカイブ」 11月30日
	④ 多摩市デジタルアーカイブと連動した企画展示などのイベントを、教育委員会文化財担当、パルテノン多摩学芸担当と連携し、実施する。 教育振興課文化財担当、パルテノン多摩学芸担当との三者連携会議では、各課連携企画展示の活用や、今後のデジタルアーカイブの公開内容についての検討を始めた。文化財担当からは、記録として残している多摩市内の映像について令和5年度中に編集を行い、6年度に公開ができるよう準備を進めているという計画が確認できた。

図書館の自己評価	【図書館の自己評価対象：【取り組み８】地域資料の活用による地域文化の継承 ① 中央図書館開館に向けて「地域資料収集要領」を策定した。図書館に寄贈され、長年にわたり未整理となっていた資料の収集要領を定めることで、保存・活用を判断することができるようになった。 ② 寄贈を受けた多摩ニュータウン関係資料等の活用に向け本館の開架書庫にあった資料について、中央図書館では開架に出すための、準備を進めることができた。 ③ デジタルアーカイブについて学校図書館司書の研修会やふるさと資料館でのイベント等に職員が出向き説明することにより市民にＰＲをすることができた。 デジタルアーカイブは、三多摩地域の図書館でも関心が高く、担当者会議の事例発表ではアーカイブの公開だけでなく、YouTubeでの公開講座などを行ったことに対しての評価が高かった。また、歴史講座の後はアクセス数も増加するなど関心のある市民の方への普及に努めることができた。 ④ 教育委員会文化財担当、パルテノン多摩学芸担当と連携会議を定期的開催し、今後のデジタルアーカイブについて文化財担当から記録映像の公開に向けての計画について確認ができた。
図書館協議会の外部評価	【取り組み８】 地域資料の活用による地域文化の継承 ① 「多摩市立図書館地域資料収集要領」を策定するという目標を達成し、開架で市民が手に取れる資料として整理を進めたことは評価できる。今後一層力をいれていくことを望む。 ② ニュータウン資料の整理を進めたことは評価できる。寄贈者とのヒアリングについても質や量について図書館の自己評価に記載したほうがより明確になる。 ③ デジタルアーカイブの活用促進についての様々な取り組みについては評価できるが、さらにデジタルアーカイブに関心がない市民にも広げられるように、使い方などの情報をいろいろな機会をとらえて発信していくことが望ましい。 ④ パルテノン多摩の学芸員と連携した取り組みは評価できる。今後もより一層力を入れていくことを期待する。
今後の方向性	企画運営担当３ ① 地域資料については、教育振興課文化財係と連携して寄贈を受けた多摩市以外の地域の資料等を整理し公開していく。 ② ニュータウン資料の活用については、寄贈者とのヒアリングを行いながら、より資料の活用ができる機会を検討していく。 ③ デジタルアーカイブの活用促進については、関心が無い市民に向けての活用方法などを周知する機会を設けていく。また、教育振興課文化財係と連携して、旧多摩聖蹟記念館やふるさと資料館等で所蔵している資料や記録映像の公開等に向けて検討していく。 ⑤ 教育委員会文化財担当、パルテノン多摩学芸担当との三者連携会議を定期的開催し、事業の連携等引き続き進めていく。

基本目標（５） 弾力的な管理・運営

評価項目 【取り組み１４】 ボランティア活動の促進

● 読書活動振興のためのイベントを市内の医療施設、大学などと協働で実施する。【継続】

実施結果（具体的な取り組み状況）	● 読書活動振興のためのイベントを市内の医療施設、大学などと協働で実施する。【継続】 ・高齢者とその家族を対象とした「図書館カフェ」を認知症専門医などの医療関係者及び大妻女子大学地域貢献プロジェクトと連携し、実施した。実際の参加者は、当初想定していた図書館から遠ざかっている利用者ではなく、普段からよく図書館を利用している方ばかりとなったが、医療関係者や大学と協力できたことでイベントを充実した内容でスムーズに開催することができた。また利用者、ボランティアで参加した大学生とも本を介した交流ができ、満足度が高い内容のものを開催できた。 ➤ 開催日：10月22日（土）・11月5日（土）全2回 - 参加者：4人（募集定員10組） - ボランティア：医療関係者2人、大学関係者7人（教員1人、大学生6人） ・ビブリオバトル（紙面版）を大妻女子大学の図書館サークル OLIVE と共催し開催した。新型コロナウイルス感染症がまだ落ち着いていない状況であったことから、対面ではなく、紹介のPOPを掲示しシールで投票してもらう形式とした。 ➤ 開催期間：第1回 2月25日（土）～2月28日（火）（グリナード永山） 第2回 3月6日（月）～3月31日（金）（本館） - 紹介タイトル数：10点 - 投票数：97票 - 期間中に貸出された紹介本：6タイトル（紙の本：9回 電子書籍：6回） ・令和5年5月の図書館本館閉館及び令和5年7月に開館する中央図書館で開催するイベントアイデアを市民から募集し、多くの応募があった。応募のあったイベントは、図書館で実施について検討の上選定し、応募された市民や団体とそれぞれ協働で実施する。 ➤ 募集期間：12月6日（火）～1月4日（水） - 応募数：56件 - 閉館イベント採用数：6件 - 開館イベント採用数：13件
------------------	--

図書館の自己評価	●高齢者を対象とした図書館カフェを医療関係者や大学の協力を得て、実施することができた。初めての試みであったが、参加者だけでなくボランティアの大学生の満足度も高く、次年度以降の開催につなげることができた。 本館閉館、中央図書館開館を記念するイベントのアイデア募集を実施し、予想以上の応募があり図書館と一緒にイベントを行いたい市民の存在を認識することができ、本館閉館、中央図書館開館記念イベントを通じ、これまで図書館と関わる事がなかった市民とつながるきっかけとすることができた。 これまでに知り組んでいない新たな分野でのボランティア活動や中央図書館開館後の市民参画の仕組みを検討するにあたり、前段階として本館閉館、中央図書館開館を記念するイベントの市民アイデア募集を行った。これまで図書館と関わる事がなかった市民から予想以上の応募があり図書館と一緒にイベントを行いたい市民の存在を把握し、協働でイベントを行うきっかけをつくることができた。令和5年度に本館閉館、中央図書館開館記念イベントを市民と図書館で企画し実施することにより、市民活動との連携、協働について検討していく。
図書館協議会の外部評価	【取り組み14】 ボランティア活動の促進 ●図書館カフェについては、当初の目的であった図書館から離れている市民を図書館につなげることであったが、実際の応募は図書館を既に利用されている方であり、自己評価の部分にその点についてや、それを踏まえての今後の方向性を記載するのがよい。 市民から様々なイベントアイデアを募集し、実際にアイデアが出て、あらたなボランティア活動を創出できたことは評価できる。 閉館、開館といった大きなイベントに関わらず、市民が自己実現として図書館と関われるようなボランティアの仕組みを作ることが大切である。今後に期待したい。 入院していたり施設などに入所していたりして図書館に来られない子どもたちの読書活動を支えるために施設等に本を届けるボランティアの形も必要である。
今後の方向性	・読書活動振興のイベントを市民と恒常的に協働して実施していけるよう、市民ボランティアの養成や図書館側の受け入れ体制を検討、整備し、実施していく。 ・市内の医療施設等に入院、入所し、図書館に来られない子どもたちの読書活動を支えるため、施設等から図書館サービスに対しての要望を聞き取り、実施方法を検討していく。